

## 投稿規定

- (1) 論文の内容は、日本を含む東アジアの領域を中心としつつ、他地域も含めたグローバルな文学・歴史・思想・民俗・宗教・芸術・政治・経済・法律・社会等に関するものとする。
- (2) 投稿資格は、本学の専任及び非常勤教員・特命教授・名誉教授・客員教授・研究員・客員研究員・助手（非常勤）、研究所の企画・活動に参加した研究者、並びに編集委員会が認めた者とする。
- (3) 原稿の枚数は、四〇〇字詰め原稿用紙に換算して六〇枚前後とします。縦書き、横書きは問いません。（掲載が決定してから二週間以内に印刷用原稿を電子媒体で提出することを原則とします。）
- (4) 投稿された原稿は、編集委員会が最終的な採否の決定をします。
- (5) 執筆者校正は初校のみとします。なお、校正段階での大幅な修正はできませんので、完全原稿で提出してください。（大幅な修正があった場合は、応分の費用を負担願うこととなります。）
- (6) 各執筆者に抜き刷りを五〇部及び本誌五部を贈呈します。なお、抜き刷り増刷は、実費でいたしますので、事前に申し込みください。
- (7) 本誌に発表されたものを転載する場合は、予め運営委員会にご一報の上、出版物を一部東アジア学術総合研究所にご寄贈下さい。（『年次別論文集』への掲載を除く。）
- (8) 本誌に掲載された全ての論文等については、原稿を電子化媒体によって複製、公開し、公衆に送信することができます。
- (9) 執筆要領の詳細については、研究所までお問合せください。

## 編集後記

『東アジア学術総合研究所集刊』は、本集で五〇集という節目を迎えた。前身である『東洋学研究所集刊』から年刊で成果を問うてきた歩みが、半世紀の時を刻んだということになる。本集には、既刊の総目次を掲げてある。東アジアに関わる人文および社会科学の多様な業績が発信されてきたことを確認いただければ幸いである。研究所の事業にご協力くださったみなさまに感謝すると共に、研究機関としての持続と発展とを喜びたい。

本集には、四編の論考を掲載することができた。扱われる地域として、中国と日本とがあること、論じられる時代が古代から現代にまで及んでいることは、研究の既往と現在とを象徴的に表わしているように思う。江藤論文で触れられている日中国交正常化は、一九七二年のこと、本集刊の創刊と相前後する。二国関係の新たな次元の展開が、本研究所の活動と対応していたことに改めて気づかされた。

新型コロナウイルスの感染拡大は、世界が相即的につながっていることを印象づけるできごとであった。現時点ではまだ終息の見込みが立たず、さまざまな言説が現われている。ナショナリズムにとらわれ、短絡的にほかの国や民族を否定的にあげつらう発言も、残念ながらしばしば見られた。むろん、学問は、他者を排除する立場とは無縁のものである。国際交流はさらに深まり、実りはいよいよ豊かに結ばれることになろう。次の半世紀への第一歩は、すでに始まっている。

（山口直孝）